

森 企 計 第91号
平成20年10月3日

国土交通省道路局長 様

森町長職務代理者
森町総務課長 片 野



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼を受けた標記の件について、
別紙のとおり提出します。

(企画情報課計画振興係)

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道森町

- ・ 地方分権を推進する過程としての権限移譲や道州制議論と考えるが、一連の国の構造改革が進むなかで、行財政のあらゆる分野においても改革を進めることは当然であり、その見直しは果敢に行わなければならないが、経済や社会活動等、国民生活にとって最も基本的な社会資本である真に必要な道路までもが、改めて、その必要性を具体的に精査せざるを得ない状況になったことに対して、地方としては大きな不安を感じるものである。地方に一定程度配慮したB/C(費用対効果)基準の改善を要望したい。
- ・ 現行の暫定税率が廃止された場合、道内市町村の税収等の大幅な減少が想定され、道路整備のみならず除雪や維持管理にも支障をきたすなど、住民生活に大きな影響を与えることとなる。なんとしても、暫定税率の現行水準を維持し、道路財源の確保を図って頂きたい。
また、地方の道路財源確保のために、これまでの補助事業や地方道路整備交付金事業の維持を強く望むものである。
更に、一般財源化されることで、これまでの受益と負担の関係が発生しなくなることから、自動車ユーザーだけに負担させる事に対して、矛盾が発生しないか疑問である。
- ・ 北海道が真に豊かで活力ある地域を目指し、我が国における食料やエネルギーの供給基地として、国の政策的位置づけのもと、社会資本の整備が着実に進められてきた。今後においても、その役割をきっちりと果たすために、互いに高水準な道路で連結し、地域連携の強化を図ることが緊急の課題である。
とりわけ、本道の高規格幹線道路の整備率は30%台という状況になっており、本州の高速ネットワークの形成状況の比ではありません。このような状況下で、道路特定財源が一般財源化されたことに伴い、高規格道路等の建設遅延は勿論のこと、一般国道の維持管理についても大きな影響が出るものと思料しているところである。
- ・ 管内には常時観測対象火山である「駒ヶ岳」が存在しており、平成8年以降には8回の小噴火を繰り返すなど、いまだ山体膨張が続き予断を許さない状況にある。予想される噴火や泥流・土石流の発生に備えて、被害を最小限にとどめるためにも、更に火山観測体制を強化したうえでの避難路(国道5・278号、森港、砂原漁港、北海道縦貫自動車道)の確保を含めた総合的な防災体制の強化が肝要です。
ネットワーク化された避難路網の確保のためにも、平成24年度供用開始予定の北海道縦貫自動車道大沼ICの早期整備や、それに間に合わせた道道大沼公園鹿部線の開削整備が必要と判断される。
更に、大規模な災害に対応すべく「道の駅」に避難場所、情報発信基地などの新たな防災機能の充実を図り、防災拠点化を図るべきと考える。

今後の道路行政についての意見・提案

②—1 地域の現状と抱える課題

北海道森町

○現状

環境負荷の軽減、住民との協働による道路空間づくり、過度の車利用の抑制と公共交通の整備促進、健康づくりにつながる徒歩・自転車利用、災害時の交通確保、歩行者の安全性確保、既存ストックの計画的な管理など、道路・交通政策は大きな転換期を迎えています。

町内の道路は、国道5号と278号を幹線道路として、道道森砂原線、森停車場線、霞台森停車場線、濁川温泉線、宿野辺保養基地線、大沼インター線、大沼公園鹿部線及び町道などを支線とし、広域道路網を形成しています。また、大通と清澄通の2路線が街路事業により整備され、緑豊かな道路景観をつくっています。

○課題

国道、道道の改良整備の要望や町道網の計画的な整備とともに、北海道縦貫自動車道の早期整備をはじめ、(仮称)森・大沼インターチェンジとの接続道路の早期整備や冬季の道路凍結・除雪対策、駒ヶ岳噴火に備えた道路整備などを課題とし、交流の活発な便利で安全なまちをめざします。

今後の道路行政についての意見・提案

②—2 地域の目指すべき将来像

北海道森町

- ・ 交流の活発な、便利で安全なまちづくりに向けて、北海道縦貫自動車道の早期整備をはじめ国道・道道の整備を促進するとともに、町道網などの整備を計画的に推進します。整備にあたっては、美しく安全で快適な道路環境の整備と冬季間の交通と安全性の確保に努めます。

(1)道路網の整備

- ① 長期的な展望に基づく総合的・計画的な道路整備に向けて、道路マスタープランを策定し、国道・道道、町道、農道、林道の計画的な整備を図ります。
- ② 北海道縦貫自動車道の早期全線開通と(仮称)森・大沼両インターチェンジの整備、接続道路の整備を関係機関に要望します。
- ③ 国道、道道の整備・改良を要望するとともに、特に、道道霞台森停車場線の未整備区間の改良整備と道道大沼公園鹿部線の早期整備を要望します。
- ④ 幹線町道の拡幅や未改良路線の改良、都市計画道路の整備を計画的に進めるとともに、農林業生産の基盤となる農林道の整備を進めます。

(2)道路環境の向上

- ① 整備済みの町道・都市計画道路などについて、計画的に適切な維持管理に努めます。
- ② 道路の拡幅・舗装、危険箇所の付替え、交通安全施設の整備など、冬期や災害時にも対応できるような安全で快適な道路づくりに努めます。特に、海岸部から国道にかけて傾斜している本町の特徴を考慮に入れ、安全な道路づくりを進めます。
- ③ 市街地、住民利用施設周辺、通学路などを中心に、歩道や小公園(ポケットパーク)の整備、道路のバリアフリー化、交通事故防止に向けた改良など、快適で安全な道路づくりを進めます。
- ④ 中心市街地、観光・レクリエーション拠点を中心に、自然と調和した看板づくり、景観を阻害する看板広告物の排除など道路景観の向上、道路緑化の推進、駐車場の整備、駒ヶ岳や噴火湾などの眺望拠点(ビスタポイント)の整備などを進めます。
- ⑤ 身近な道路の維持管理などを近隣住民や企業が行う道路里親制度(アドプト制度)の導入を検討するとともに、道路のフラワーガーデン化など住民の道路環境向上のための取り組みを促進します。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施設の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道森町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 ・都市交通の快適性、利便性の向上 ・総合的な交通安全及び危機管理の強化	・北海道縦貫自動車道の早期全線開通。IC(森・大沼)並びに接続道路の整備(主要道道大沼公園鹿部線)。 ・国道278号線(砂原東4丁目～砂原東5丁目間)の改良整備	・北海道を縦断する高速道路が整備されると、渋滞解消や移動時間の短縮など大幅に交通環境の改善が期待されます。 また、高度医療施設への搬送短縮や、大規模災害または活火山「駒ヶ岳」噴火の代替路・避難路として、住民が安心して暮らせる生活の実現が期待できます。 更に、当町は一次産業が活発です。交通がネットワーク化することにより迅速な物流が可能となり、付加価値の高い産品を提供できることが期待されます。 ・曲線箇所の線形改良をすることにより、災害時や特に冬期の交通事故防止に向けた快適で安全な道路づくりが期待されます。	